

途切れのない児童発達支援について

(質問) 5歳児健診後のフォロー体制や早期療育体制の充実、小中学校の特別支援教育の環境整備を求めてきた。さらに、すずかっ子支援ファイルを活用した家庭・教育・福祉が連携した取り組みが必要だが、その進め方は。

(答弁) 第2療育センターやすずっこスクエアの開設、園・学校などへの訪問指導体制も

充実させた。小中学校では、特別支援教育コーディネーターの強化や支援員の増員などに取り組んでいる。今後の対策については、関係各課による「特別支援教育プロジェクト会議」を立ち上げ、専門家の助言も得て、さらに検討していく。家庭・教育・福祉の連携強化については子ども家庭支援課が中心となり、すずかっ子支援ファイルの内容や活用方法の改善、一元管理やシステム化なども含め取り組み、途切れのない支援を充実させる。

その他の質問 ○コミュニティ・スクール

ごみ問題とまちづくりについて

(質問) ①ごみ屋敷をはじめ樹木の繁茂や多頭飼いなど「住居荒廃」問題への対応は。②高齢世帯などを戸別に訪れる「ふれあい収集」への考えは。③自治会退会者の扱いは。④集積所管理に問題のある集合住宅への対応は。

(答弁) ①令和元年度、福祉部局はごみ屋敷問題を協議する地域ケア会議を立ち上げた。環

境・住宅部局、地域とも連携し対応する。②鈴鹿市社会福祉協議会ではごみ出し支援を行っているが、本市でも地域づくり協議会など共助による生活支援に、令和元年度から補助金を交付している。③ごみ集積所の利用を自治会加入状況で制限するのは法的に適切でなく、非加入者には維持管理上のルールや応分の負担など、双方合意の上で利用する必要性の理解を求める。④周辺環境の悪化が継続する場合は集積所の移設など、指導や協議も行っている。集合住宅などの協会との協議も検討する。

第2期地域創生(人口減少対策)の実効性について

(質問) 地方創生(人口減少対策)が第2期に入るが、第1期の総括、検証をどのように生かし第2期の政策にしたのか。第1期でさまざまな施策を実行しているが、本来の地方創生の成果である人口動態の向上には至っていない。明石市、戸田市は子育て世代に向けたダイナミックな政策、財源投入で人口増、

転入増、出生率増、税収増につなげている。本市はどのように成果を上げていくのか。

(答弁) 総合計画2023の後期基本計画と整合を図りながら推進する。主なものとして、企業誘致および効果的な土地活用への支援、就業マッチングによる若い世代の移住促進・定住人口確保、出産の支援、多子世帯の経済的負担や保育士の負担の軽減など、多様な保育ニーズへの対応強化に取り組む。

その他の質問 ○情報公開・情報発信 ○支援措置案件の情報共有と再発防止策

就労支援について

(質問) ひきこもりなどで働きづらさを抱える方が福祉制度のはざまにあって相談できる窓口や、自立して働くことができる就労訓練の場が必要と考える。そこで本市と社会福祉協議会やハローワークなどの連携体制が必要である。さらに企業や市民サポーターの支援体制を構築し、誰もが働きがい・生きがいを

感じて過ごせる地域づくりの実現を求める。

(答弁) 働きづらさを抱える人に対して、生活困窮者の就労支援と同様に、自立に向け就労支援員が寄り添って、支援に取り組んでいる。現在、福祉制度のはざまにある人に対して、的確に支援できる体制の構築を目指し地域共生社会ワーキンググループを組織して相談支援体制や総合相談窓口の設置について検討している。令和2年度から四日市市内にある認定訓練事業所に委託して就労支援準備事業の実施を予定している。